
私の家族

華羅腐瑠うさぎ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の家族

【Nコード】

N2612BA

【作者名】

華羅腐瑠つとぎ

【あらすじ】

なんかおかしい家族、邊家

邊家のおくるグダグダ毎日

登場人物

登場人物

ママ

邊 鞠 (Mari Hen)

百合趣味のある腐女子

パパ

邊 紫苑 (Si on Hen)

薔薇趣味のあるオタク

1番上の兄

邊 薫 (Kaoru Hen) 高3

超ド級のシスコン 意外と文武両道

双子

2番目の兄

邊 塁 (Rui Hen) 高3

これまた超ド級のシスコン薫が邪魔

3番目の姉

邊 瑠胡 (Ruko Hen) 高2

なんかズレてるツンデレ娘 妹が可愛くて仕方ない
ツッコミ担当

4番目(末っ子)

邊 瑠夏 (Ruka Hen) 中3

天然 頭がちよっと足りないドジッ娘

夕ご飯（前書き）

邊家の夕ご飯ただではすみません（笑）

夕ご飯

夕方6時、冬休み中のため家族全員がすでに食卓を囲んでいた。今晚のメニューはきゅうりの塩もみ、サンマ、白米、豆腐の味噌汁である。

とても和風で・・・とても簡単なメニュー、邊家は末っ子の瑠夏が中学2年生になってから始まった決まりごとの食事当番制、今日の当番は瑠夏。まだ中学生ゆえに凝った料理はまだ作ることが出来ない。

さて、そんなメニューに家族はどんな反応をするのか。

まず、母親の鞠だが・・・

「あら？今晚のご飯は和風なのね、とてもヘルシーでいいわね

おいしそうじゃない。」

次に父親の紫苑

「そうだね、とてもおいしそうだ、和風だからメタボになる可能性も低いしな、あ、でもおいしすぎておかわりいっぱいしたら本末転倒か？はっはっは」

最近お腹が気になりだしたらメニューを和風に飲み物はお茶に甘いもの禁止でがんばろう。あと適度な運動も。

さて、今回は父のダイエット話ではないので次、一番上の兄薫だが

「お、このサンマさつき一緒に買いに行ったのか？やっぱ活きがいいやつ選んでよかったな」

普通の見解。次は薫と双子の弟の壘だが・・・「どういうことだ兄貴！はっ！まさか兄貴右に瑠夏、左に瑠胡のまさにハーレム状態で・・・なんとということだ！！・・・バシッ」途中で話が途切れたのは3番目の姉、瑠胡が持っていたハリセンで兄の壘を叩いたからだ。何故、ハリセンを持っていたかなんて聞かないでおこう。

「壘さん黙ってくれない？ご飯に1滴でも唾がとんだら薫兄さんの使用済み下着を部屋に投げ入れるから。」

「えと・・・まああのもつ食べよう？私お腹すいちやったよ。」
おなかぺこぺこ〜とお腹を触りながら言う瑠夏。その瑠夏の一言でみんなコロつと態度を変えニコニコとした顔になり「いただきませす」と、手を合わせた。

「それで、そのときの店員さんがね〜とても可愛くて・・・ふふっ」

「あゝあのとときの店員さんかい？確かに初々しくて可愛かったがその横の指導係の人かっこよかったなあ、意外と受けっぱい顔してたし」

「あら？そうなのああいう黒い眼鏡かけたチヨイ悪っぱい顔してる人は攻めかと思ったのに残念」

「フラグ立ちそうだね、今度のネタにできそうだ、今度ツーショツト撮ってきてくれないかい？なるべくはやめにアニメが見れないからね」

上の会話は邊家の夫婦の日常会話だ。

子供たちはというと

「さっきのことだけど兄貴」

「べ、別に壘兄さんの部屋に入ってちよつと×××な本を探してそれを・・・」

「お、お姉ちゃん・・・？」

「みんな可愛いな〜」

「兄さん／兄貴キモイ」

「まあまあ・・・」

「ツンデレか〜？」

可愛いなあ」

まあちよつと救いようのない感じだがこれが邊家の夕食だ。このあと母親の鞠はお風呂、父親の紫苑はパソコンでゲーム、イベント中だから抜けられない状況、らしい。子供たちは勉強。
邊家は夕食中でさえ騒がしい。

夕ご飯（後書き）

我が家は弟しか今いません（泣

母親も父親もまだ仕事中です

今日は遅くなるそうなのですが弟が・・・ハア・・・小説のような
家族になりたいと幾度となく思います・・・

事実は小説より奇なりといいますがこの家族以上に個性的・・・我
が家も十分個性的でしたw

ここまで読んでいただきありがとうございます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2612ba/>

私の家族

2012年1月6日19時46分発行